視点

“遊びを通した総合的な指導”を学ぶ教育実習のあり方とは

白百合女子大学　人間総合学部初等教育学科　教授
髙　橋　貴　志

現行の幼稚園教育要領（以下教育要領）が実施され、すでに５年余りが経過しました。今回の改訂は、これまでの教育要領の内容が一変したものではなく、旧教育要領の内容を社会の変化、子どもや保護者の置かれた状況に沿って、ブラッシュアップしたものだと理解しています。それは、環境を通した教育、幼児の主体的な活動の促し、遊びが幼児にとって重要な学習であること、などの内容が堅持され、それに磨きをかけることが示されているからです。

さらに、このような幼稚園教育のスタイルを後押しするのが、小学校以降の学習指導要領の改訂です。ご承知の通り、教育要領の改訂後、それを追いかけるように、小学校以降の学習指導要領が改訂されました。そこにはいわゆる３つの資質能力（知識・技能／思考力・判断力・表現力／学びに向かう力・人間性等）が、改訂の柱として示されています。そして、この３つの柱の基盤部分を担うのが幼児教育、という建付けになっています。幼稚園教育と小学校以降の学校教育が密接かつ連続的につながっていることがわかります。加えて、小学校教育が幼稚園教育に対してリクエストしている内容も明確になりました。それは幼稚園での指導は“遊びを通した総合的な指導”である、ということです。このことを私は、幼稚園がこれまで当然のように行ってきた遊びを通した指導に対する、小学校教育側からの追い風、と捉えています。

さて、私は幼稚園の教員を養成する学科に所属していますから、遊びを通した総合的な指導ができる教員をどのように養成するか、という点を常に意識しています。中でも、私が重視している科目は教育実習です。読者の方々には釈迦に説法で恐縮ですが、遊びは子どもの自発的な活動であり、子どもの自己選択、自己決定の機会が保障されなければなりません。ただ、幼児理解をし、幼児の興味や関心を読み取りながら、ねらいに沿って指導することは、学生にとってはかなり難易度が高いものです。そのため、特に責任実習時に、学生があらかじめ決めた内容を幼児に提案し、その内容を幼児が楽しむ活動が実習のメインになるケースも散見されます。実習期間が限られている学生の立場になればそれもやむを得ない、という見方もできるかもしれませんが、前述した学校教育全体の流れを考えれば、そうも言っていられません。限られた期間内で学生に可能な幼児理解やねらいの設定、環境構成や指導の手立ては何か、養成校と幼稚園の間で議論を深め、共通理解することが今、求められているのだと思います。幼児教育のねらいは「方向目標」と言われます。私は、遊びを指導する際の学生の評価に「方向目標」の観点を組み込むことの必要性を感じています。十分な幼児理解ができていなくても、ねらいの設定が適切でなくても、担任教師の指導の下、遊びを指導する方向性を経験できることに意味があると思うからです。もちろんこの段階は、“遊びを通した総合的な指導”としては不完全な状態です。しかし、指導の方向性を経験することによって、学生がその経験の延長線上に、自身が幼稚園教諭となったときの保育実践をイメージでき、不完全であるがゆえに、教師としてさらに学び続ける姿勢をもつことの重要性に気づきやすくなるのでは、と考えています。

●～全日私幼連からのご報告～

園運営の在り方①

全日本私立幼稚園連合会
会長　田中　雅道

どの情報番組だったかは忘れましたが、夫婦で38頭の乳牛を飼育している酪農家が紹介されていました。命を預かる仕事柄、休みを取ることもできず、努力をしているにもかかわらず、昨今の肥育飼料の高騰、施設を維持管理する光熱費の高騰によって経営が圧迫され、牛への愛情もあって事業を継続したいのだが、困難になってきているといった内容でした。その後出てきた経営コンサルタントのコメントは、乳牛38頭では経営は難しい。事業継続のためには規模の拡大が必要であるというコメントでした。

そのコメントを聞きながら思い出したのが、昨年度の全日本私立幼稚園連合会設置者・園長全国研修大会で講演していただいた長崎県の学校法人奥田学園理事長・創成館高等学校校長の奥田先生の話でした。生徒募集が低迷し募集停止も視野に入れなければならない状況で理事長を引き継ぎ、まず最初に経営コンサルタントに相談したところ、徹底した経費の削減を行うとともに経費の均衡化を図り、体力のある間に募集停止を視野にいれるといった内容の提言を受けたということでした。そのようなことは分かっていることで、自分の学校をどうするかということを悩み、理事長が先頭に立って職員の意識を変え、生徒と共に良い学校になるという強い意識を前面に出して改革に成功したといったことを話されていました。

設置者の意識を変える、教職員の意識を変える、生徒の意識を変えるという手順を、10年以上も時をかけて徐々に変化を起こし、学校全体を変えるとともに、長崎に住む多くの県民があの学校は変わったという認識を獲得していかれたのです。

私の園は京都市中京区にあり、近くに二条城がある京都市の中心部ですが、バブルの時に園児の急減を経験しています。土地の値段が急上昇するとともに、出生数が急減し、多くの幼稚園が立ちいかなくなりました。昭和の時代、私立幼稚園が10園、公立幼稚園が7園あったのですが、現在残っているのは私立幼稚園・認定こども園が4園、公立幼稚園が1園です。毎年のようにどこかの幼稚園が休園・廃園となり、私の中では運営上は楽になるという印象と共に、仲間がいなくなるという寂しさを味わいました。その時に考えたのが、私立幼稚園としての特徴をどう持つかという意識でした。私学である限り、この指とまれという特徴をどのような方法で、どう伝えていくかが、私が園を運営し始めてからの最大の課題でした。

幸いなことに、京都市は140万を超える人口を抱えており、中京区から通園範囲を拡大することで一定の園児数を確保することができたのですが、今の全国の課題は、どこを探しても子どもがいない地域の私立の在り方が問われています。

コロナの影響を受けた後に、生を受けてきた子どもたちが、今年度から入園し始めています。おそらく多くの幼稚園、認定こども園で新規の入園希望者が減ったという実感を持たれていることと思います。子どもの数自体が減っているわけですから、園児が増加することを望むこと自体が無理な状況にあります。今の出生数が劇的に増加することはまず望めません。このような状況下での園運営の在り方をどう変えていくのか、次回ゆっくりと考えていきたいと思っています。

全日本私立幼稚園連合会の振興活動 ～盛山正仁文部科学大臣への表敬訪問～

● 10.3 盛山正仁文部科学大臣への表敬訪問

盛山文部科学大臣へ、田中雅道会長はじめ、全私学連合代表・田中愛治会長ほか、各団体の代表者が、就任のごあいさつに伺いました。

〔今月のトピック・102 条園委員会〕

● 9.26

令和 5 年度 102 条園研究会議

9 月 26 日、東京・アルカディア市ヶ谷において、令和 5 年度 102 条園研究会議が対面形式にて開催され、全国から 61 名の先生方が参加しました。

はじめに、尾上正史・全日私幼連副会長より開会のことばがありました。第一部ではこども家庭庁成育局保育政策課の本後健課長より、こども誰でも通園制度（仮称）についてご講演いただき、講演後は、事前質問に対するご回答がありました。第二部では、全日私幼連認定こども園委員会の安本照正副委員長より、施設給付型制度の加算についてご講演いただき、事前質問ならびに当日質問に対するご回答がありました。

最後に、溝渕真澄・全日私幼連 102 条園委員長より閉会のあいさつがあり、研究会議は終了しました。

○令和５年度学校基本調査速報概要

幼稚園の現状

区分		全体		国立		公立		私立	
		総数	割合	総数	割合	総数	割合	総数	割合
幼稚園数		8,837	100%	49	0.6%	2,744	31.1%	6,044	68.4%
学級数		44,873	100%	219	0.5%	7,110	15.8%	37,544	83.7%
園児数	３歳児	247,094	100%	1,157	0.5%	21,336	8.6%	224,601	90.9%
	うち満３歳児	61,526	100%	0	0.0%	311	0.5%	61,215	99.5%
	４歳児	281,131	100%	1,568	0.6%	33,361	11.9%	246,202	87.6%
	５歳児	313,570	100%	1,765	0.6%	43,192	13.8%	268,613	85.7%
	計	841,795	100%	4,490	0.5%	97,889	11.6%	739,416	87.8%
本務教員数		85,421	100%	360	0.4%	13,624	15.9%	71,437	83.6%

注）出典：文部科学省「令和５年度学校基本調査速報」（令和５年８月23日現在）
※満３歳児の園児数は、前年度間に入園した平成31年４月２日～令和２年４月１日生まれの園児数である。
※幼保連携型認定こども園数の園数等は含まない。

幼稚園の園数等の推移

区分	幼稚園数（A）	うち私立幼稚園数	在園児数 計（B）	3歳児	4歳児	5歳児	うち私立幼稚園の在園児数	教員数（本務者）（C）	本務教員1人あたり園児数（B／C）	幼稚園修了者数	小学校及び義務教育学校第1学年児童数に対する幼稚園修了者数の比率
年度	園	園	人	人	人	人	人	人	人	人	%
平成2	15,076	8,785	2,007,964	275,201	795,056	937,707	1,568,141	100,935	19.9	961,842	64.0
3	15,041	8,769	1,977,611	300,242	774,127	903,242	1,560,274	101,493	19.5	937,880	64.0
4	15,006	8,737	1,948,868	323,776	753,856	871,236	1,551,042	102,279	19.1	903,948	64.1
5	14,958	8,704	1,907,110	322,763	741,745	842,602	1,520,513	102,828	18.5	872,061	63.8
6	14,901	8,657	1,852,183	326,610	703,245	822,328	1,474,661	103,014	18.0	841,978	63.5
7	14,856	8,639	1,808,432	341,515	689,807	777,110	1,439,992	102,992	17.6	822,209	63.2
8	14,790	8,601	1,798,051	346,675	693,668	757,708	1,431,056	103,518	17.4	777,675	62.8
9	14,690	8,556	1,789,523	350,401	682,115	757,007	1,422,090	103,839	17.2	785,467	62.5
10	14,603	8,524	1,786,129	371,308	673,089	741,732	1,419,452	104,687	17.1	757,660	62.3
11	14,527	8,497	1,778,286	358,093	691,828	728,365	1,410,817	105,048	16.9	741,362	61.6
12	14,451	8,479	1,773,682	370,237	656,806	746,639	1,402,942	106,067	16.7	728,334	61.1
13	14,375	8,443	1,753,422	381,798	664,732	706,892	1,385,641	106,703	16.4	747,154	60.6
14	14,279	8,410	1,769,096	398,626	657,316	713,154	1,399,011	108,051	16.4	707,642	59.9
15	14,174	8,389	1,760,494	400,243	658,631	701,620	1,392,640	108,822	16.2	712,935	59.3
16	14,061	8,363	1,753,393	410,228	642,804	700,361	1,389,997	109,806	16.0	702,255	58.9
17	13,949	8,354	1,738,766	420,343	637,554	680,869	1,383,249	110,393	15.8	700,745	58.4
18	13,835	8,317	1,726,520	423,770	629,348	673,402	1,377,688	110,807	15.6	682,082	57.7
19	13,723	8,292	1,705,402	428,928	613,556	662,918	1,367,723	111,239	15.3	672,925	57.2
20	13,626	8,276	1,674,172	427,148	602,112	644,912	1,349,247	111,228	15.0	662,911	56.7
21	13,516	8,261	1,630,336	415,991	584,228	630,117	1,318,006	110,692	14.7	644,771	56.4
22	13,392	8,236	1,605,912	435,457	559,513	610,942	1,304,966	110,580	14.5	631,221	56.2
23	13,299	8,226	1,596,170	443,750	570,750	581,670	1,303,803	110,402	14.5	611,036	55.7
24	13,170	8,197	1,604,225	442,508	566,985	594,732	1,314,968	110,836	14.5	584,417	55.1
25	13,043	8,177	1,583,610	440,512	554,321	588,777	1,303,661	111,111	14.2	595,976	54.8
26	12,905	8,142	1,557,461	441,834	540,560	575,067	1,287,284	111,059	14.0	590,632	54.2
27	11,674	7,304	1,402,448	398,054	488,412	515,982	1,158,902	101,497	13.8	578,804	53.5
28	11,252	7,076	1,339,761	384,109	460,583	495,069	1,111,301	99,957	13.4	518,301	48.5
29	10,878	6,877	1,271,918	370,274	435,782	465,862	1,061,835	97,840	13.0	496,269	46.7
30	10,474	6,688	1,207,884	357,309	411,642	438,933	1,015,792	95,592	12.6	467,594	44.8
令和元	10,069	6,538	1,145,574	342,213	389,868	413,493	972,294	93,593	12.2	439,919	42.6
2	9,698	6,398	1,078,496	320,701	366,833	390,962	927,896	91,785	11.8	414,932	40.7
3	9,418	6,266	1,008,815	301,036	336,752	371,027	875,379	90,140	11.2	392,755	39.0
4	9,121	6,152	923,089	273,080	310,838	339,171	807,572	87,761	10.5	371,564	37.2
5	9,121	6,152	923,089	273,080	310,838	339,171	807,572	87761	10.5		

注）出典：文部科学省「学校基本調査」。令和５年度は速報値。３歳児には満３歳児入園者を含む。
※令和５年度「幼稚園修了者数」速報値は未掲載。確定値のみ12月頃掲載予定。
※幼保連携型認定こども園の園数等は含まない。

3歳児教育の普及状況の推移

区分	幼稚園数				在園児数				3歳児在園児数			
	計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立
平成2年度	15,076	48	6,243	8,785	2,007,964	6,581	433,242	1,568,141	275,201	981	5,625	268,595
3	15,041	48	6,224	8,769	1,977,611	6,630	410,707	1,560,274	300,242	983	6,096	293,163
4	15,006	49	6,220	8,737	1,948,868	6,613	391,213	1,551,042	323,776	1,032	7,037	315,707
5	14,958	49	6,205	8,704	1,907,110	6,740	379,857	1,520,513	322,763	1,102	8,424	313,237
6	14,901	49	6,195	8,657	1,852,183	6,786	370,736	1,474,661	326,610	1,119	10,838	314,653
7	14,856	49	6,168	8,639	1,808,432	6,778	361,662	1,439,992	341,515	1,120	13,236	327,159
8	14,790	49	6,140	8,601	1,798,051	6,827	360,168	1,431,056	346,675	1,124	15,784	329,767
9	14,690	49	6,085	8,556	1,789,523	6,803	360,630	1,422,090	350,401	1,132	17,957	331,312
10	14,603	49	6,030	8,524	1,786,129	6,823	359,854	1,419,452	371,308	1,167	21,339	348,802
11	14,527	49	5,981	8,497	1,778,286	6,911	360,558	1,410,817	358,093	1,181	23,804	333,108
12	14,451	49	5,923	8,479	1,773,682	6,889	363,851	1,402,942	370,237	1,207	28,131	340,899
13	14,375	49	5,883	8,443	1,753,422	6,819	360,962	1,385,641	381,798	1,188	33,270	347,340
14	14,279	49	5,820	8,410	1,769,096	6,804	363,281	1,399,011	398,626	1,203	36,867	360,556
15	14,174	49	5,736	8,389	1,760,494	6,718	361,136	1,392,640	400,243	1,229	39,307	359,707
16	14,061	49	5,649	8,363	1,753,393	6,626	356,770	1,389,997	410,228	1,210	41,311	367,707
17	13,949	49	5,546	8,354	1,738,766	6,572	348,945	1,383,249	420,343	1,217	42,800	376,326
18	13,835	49	5,469	8,317	1,726,520	6,531	342,301	1,377,688	423,770	1,237	43,082	379,451
19	13,723	49	5,382	8,292	1,705,402	6,457	331,222	1,367,723	428,928	1,270	42,987	384,677
20	13,626	49	5,301	8,276	1,674,172	6,374	318,551	1,349,247	427,148	1,265	42,702	383,181
21	13,516	49	5,206	8,261	1,630,336	6,315	306,015	1,318,006	415,991	1,278	42,104	372,609
22	13,392	49	5,107	8,236	1,605,912	6,215	294,731	1,304,966	435,457	1,310	43,436	390,711
23	13,299	49	5,024	8,226	1,596,170	6,044	286,323	1,303,803	443,750	1,308	43,663	398,779
24	13,170	49	4,924	8,197	1,604,225	5,930	283,327	1,314,968	442,508	1,291	43,451	397,766
25	13,043	49	4,817	8,177	1,583,610	5,785	274,164	1,303,661	440,512	1,292	42,599	396,621
26	12,905	49	4,714	8,142	1,557,461	5,614	264,563	1,287,284	441,834	1,259	42,315	398,260
27	11,674	49	4,321	7,304	1,402,448	5,510	238,036	1,158,902	398,054	1,288	38,438	358,328
28	11,252	49	4,127	7,076	1,339,761	5,394	223,066	1,111,301	384,109	1,324	37,107	345,678
29	10,877	48	3,952	6,877	1,271,918	5,288	204,795	1,061,835	370,274	1,265	35,668	333,341
30	10,474	49	3,737	6,688	1,207,884	5,330	186,762	1,015,792	357,309	1,345	35,052	320,912
令和元年度	10,069	49	3,482	6,538	1,145,574	5,243	168,037	972,294	342,213	1,260	33,104	307,849
2	9,698	49	3,251	6,398	1,078,496	5,114	145,486	927,896	320,701	1,224	29,062	290415
3	9,418	49	3,103	6,266	1,008,815	4,902	128,534	875,379	301,036	1,253	27,244	272539
4	9,121	49	2,920	6,152	923,089	4,751	110,766	807,572	273,080	1,214	23,921	247,945
5	8,837	49	2,744	6,044	841,795	4,490	97,889	739,416	247,094	1,157	21,336	224,601

注）出典：文部科学省「学校基本調査」。令和5年度は速報値。3歳児には満3歳児入園者を含む。
※幼保連携型認定こども園等は含まない。

幼保連携型認定こども園の園数等

区分		全体	公立	私立
園数		6,982	947	6,035
学級数		30,771	4,267	26,504
園児数	0歳	30,181	2,494	27,687
	1歳	97,995	9,916	88,079
	2歳	113,303	12,182	101,121
	3歳	194,645	22,314	172,331
	4歳	200,230	24,749	175,481
	5歳	206,907	26,631	180,276
	計	843,261	98,286	744,975
本務教員数		142,300	15,667	126,633

注）出典：文部科学省「令和5年度学校基本調査速報」（令和5年8月23日現在）

■都道府県別幼稚園の現状

（令和５年現在８月23日現在「学校基本調査速報」）

区分		幼稚園数				在園児数（１）			
		計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立
1	北海道	331	2	37	292	29,963	106	1,003	28,854
2	青森	85	1	2	82	3,404	41	14	3,349
3	岩手	64	1	25	38	3,294	53	520	2,721
4	宮城	208	1	60	147	19,248	123	2,006	17,119
5	秋田	32	1	1	30	1,715	65	28	1,622
6	山形	55	1	8	46	4,352	70	414	3,868
7	福島	207	1	110	96	13,499	68	3,960	9,471
8	茨城	196	1	84	111	16,261	114	2,859	13,288
9	栃木	74	1	1	72	7,783	143	53	7,587
10	群馬	111	1	57	53	6,739	132	1,909	4,698
11	埼玉	491	1	39	451	69,600	79	1,722	67,799
12	千葉	451	1	70	380	56,920	139	2,935	53,846
13	東京	959	2	158	799	110,423	362	7,134	102,927
14	神奈川	608	0	34	574	82,796	0	1,257	81,539
15	新潟	64	2	20	42	2,961	99	463	2,399
16	富山	27	1	8	18	1,502	78	151	1,273
17	石川	43	1	－	42	3,578	88	－	3,490
18	福井	60	1	46	13	857	111	225	521
19	山梨	54	1	2	51	3,241	70	96	3,075
20	長野	91	1	7	83	7,888	88	305	7,495
21	岐阜	145	0	55	90	16,164	0	2,467	13,697
22	静岡	328	1	171	156	24,401	79	6,505	17,817
23	愛知	390	1	51	338	57,300	140	3,557	53,603
24	三重	150	1	105	44	10,149	76	2,851	7,222
25	滋賀	121	1	101	19	8,521	110	6,779	1,632
26	京都	189	1	44	144	17,204	96	1,878	15,230
27	大阪	520	1	191	328	62,788	144	8,535	54,109
28	兵庫	428	2	245	181	35,055	184	9,587	25,284
29	奈良	133	2	93	38	8,436	222	3,824	4,390
30	和歌山	63	0	36	27	3,695	0	793	2,902
31	鳥取	18	1	3	14	1,514	27	120	1,367
32	島根	76	1	66	9	2,002	48	1,731	223
33	岡山	199	1	168	30	9,934	127	5,373	4,434
34	広島	208	2	67	139	16,632	124	988	15,520
35	山口	155	1	24	130	11,583	75	392	11,116
36	徳島	85	1	75	9	3,906	130	2,953	823
37	香川	108	1	74	33	6,823	118	2,571	4,134
38	愛媛	114	1	45	68	8,480	106	913	7,461
39	高知	36	1	12	23	2,137	85	360	1,692
40	福岡	407	1	24	382	47,627	41	1,033	46,553
41	佐賀	46	1	4	41	2,926	57	119	2,750
42	長崎	96	1	17	78	6,613	79	318	6,216
43	熊本	97	1	23	73	7,057	115	787	6,155
44	大分	141	1	85	55	6,306	128	1,371	4,807
45	宮崎	88	1	10	77	4,575	96	137	4,342
46	鹿児島	134	1	65	68	7,425	54	1,156	6,215
47	沖縄	151	0	121	30	6,518	0	3,737	2,781
総計	（全国）	8,837	49	2,744	6,044	841,795	4,490	97,889	739,416

※出典：令和５年度学校基本調査速報（令和５年８月23日現在）
※前年度間入園の在園児数は、令和４年度間に満３歳児入園した人数。
※幼保連携型認定こども園の園数等は含まない。

在園児数（2）				教員数（本務者）			
3歳	左記のうち前年度間入園（内数）	4歳	5歳	計	国立	公立	私立
9,073	3,081	9,824	11,066	3,839	10	239	3,590
979	539	1,165	1,260	631	6	7	618
924	390	1,059	1,311	453	11	121	321
5,583	1,224	6,419	7,246	2,031	8	361	1,662
537	224	564	614	296	7	4	285
1,200	435	1,495	1,657	652	6	58	588
3,753	971	4,568	5,178	1,536	4	465	1,067
4,547	1,335	5,452	6,262	1,737	7	446	1,284
2,381	990	2,564	2,838	990	7	10	973
2,012	843	2,252	2,475	1,063	10	352	701
20,922	3,612	23,477	25,201	5,710	5	249	5,456
16,776	2,686	19,107	21,037	4,704	7	369	4,328
32,174	4,179	37,237	41,012	10,240	22	793	9,425
24,640	3,705	27,769	30,387	7,369	0	162	7,207
897	395	974	1,090	539	10	94	435
426	196	496	580	208	7	32	169
1,095	700	1,134	1,349	545	7	－	538
260	119	257	340	172	8	61	103
1,003	337	1,083	1,155	495	6	20	469
2,448	716	2,641	2,799	896	10	34	852
5,064	1,933	5,302	5,798	1,760	0	441	1,319
7,177	2,243	8,157	9,067	2,706	8	1,000	1,698
17,529	4,629	19,170	20,601	4,395	10	351	4,034
2,949	705	3,378	3,822	1,060	7	446	607
2,460	34	2,976	3,085	1,028	9	822	197
5,234	2,132	5,699	6,271	1,887	7	238	1,642
18,449	3,265	21,104	23,235	6,017	9	1,131	4,877
9,463	1,628	12,096	13,496	3,623	17	1,161	2,445
2,339	278	2,926	3,171	960	17	545	398
1,113	406	1,220	1,362	424	0	163	261
455	265	497	562	215	6	12	197
549	55	649	804	352	7	309	36
2,751	564	3,315	3,868	1,165	9	670	486
4,967	1,774	5,495	6,170	1,718	12	185	1,521
3,635	1,614	3,822	4,126	1,405	8	93	1,304
452	102	1,566	1,888	532	7	424	101
2,007	623	2,255	2,561	800	7	346	447
2,569	1,220	2,823	3,088	977	9	176	792
618	220	732	787	299	6	56	237
14,804	6,282	15,601	17,222	4,876	6	165	4,705
893	365	957	1,076	356	5	22	329
1,972	977	2,240	2,401	888	7	58	823
2,106	1,008	2,324	2,627	884	9	114	761
1,468	515	1,813	3,025	798	8	230	560
1,385	837	1,459	1,731	736	7	27	702
2,178	945	2,448	2,799	771	5	172	594
878	230	1,570	4,070	683	0	390	293
247,094	61,526	281,131	313,570	85,421	360	13,624	71,437

令和５年度　地区教研大会概要

北海道地区　**教育研究大会**　　**北海道・札幌市／８月１日**

大会テーマ　「新しい時代を伸びやかに生きる」

～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

●全道大会（８月１日／札幌ガーデンパレス）
※基調講演・３分科会：対面・オンライン併用、２分科会：対面方式
●ブロック大会
・道央ブロック（10月28日／小樽市）
※基調講演：対面方式、公開保育はオンデマンド配信
・札幌ブロック（９月29・30日／札幌市）
※すべて対面方式
・道東ブロック（９月23日／釧路市）
※すべて対面方式
・道南ブロック（10月14日／函館市）
※基調講演：対面・オンライン併用、公開保育：３園対面・１園オンデマンド配信
・道北ブロック（10月21日／名寄市・士別市）
※基調講演・分科会：対面・オンライン併用・公開保育：対面

北海道は広域のため、全道型の教研大会の他に北海道内12支部を５つのブロックに分けた教研大会を実施しています。また、研修会のテーマは全日私幼幼児教育研究機構の令和４・５年度の教育研究課題「『新しい時代を伸びやかに生きる』～社会に開かれた質の高い幼児期教育を～」を研修主題として取り組んでいます。

新型コロナウイルスの影響でここ３年はオンライン方式が中心となり、なかなか対面方式での実施が難しい状況が続いていましたが、本年５月に５類に移行したことに伴い、対面方式の規模を段階的に戻し、様子をみながらコロナ禍前の通常開催に戻していくことを始めました。

北海道特有の広域性に伴う移動や多様な勤務形態などにより会場への参加が難しい状況もあることから、新型コロナウイルスの流行時に培ったオンラインやオンデマンド方式を併用しつつ、やはり会場に来て多くの先生方同士が交流しながら行う研修の良さも活かしながら、子ども一人一人の豊かな育ちを支える質の高い幼児教育に資する研修を開催して参りたいと考えております。

そのような中、８月１日には基調講演に（一社）家族・保育デザイン研究所代表理事の汐見稔幸先生をお招きし、教育研究大会（全体会）を行いました。コロナ禍前は約900人という先生が一堂に会して行っていましたが、本年度はその半分程度となる500名を定員とし、分科会を５つ設定しました。基調講演と３つの分科会は対面とオンライン方式の併用、２つの分科会はワークショップを組み込み、対面方式のみで実施しました。

オンラインで参加の皆様からも大変好評な結果となりましたが、対面で参加された皆様からも会場参加ならではの多くの実りある学びがあったと感想をいただき、それぞれの多様な事情に対応できる研修の仕組みの重要性を改めて感じたところです。

８月１日の教育研究大会を皮切りに上記の通り各ブロック大会も順次開催されますが、ブロック大会においても地域の実情に併せて、対面・オンライン方式併催、オンデマンド配信、また、公開保育もオンデマンド配信で行うなど、各ブロックで工夫を凝らして学びの機会を確保しています。

まだまだ、新型コロナウイルスの影響が不透明な状況が続きますが、対面とICTを上手に組み合わせながら、多様な学びの機会を確保し、より一層幼児教育・保育の質の向上、そして、喫緊の最重要課題でもある「人材確保」や「定着」「働きがい」などに結びつくよう、それぞれの先生がしっかりと自身の成長、キャリアアップなども実感できる研修の企画・運営に努めていきたいと思います。

（（公社）北海道私立幼稚園協会教育研究委員長、江別市・認定こども園元江別わかば幼稚園／土谷直穂実）

東京地区　教育研究大会　　東京都・千代田区／7月25日・26日

大会テーマ　「新しい時代を伸びやかに生きる」

～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

令和５年度の東京地区教育研究大会は、市ヶ谷の私学会館において対面型で行われましたが、基調講演を始めとする全体会３講演については、昨年同様オンデマンド配信の申し込みも受付け、結果的に参加人数は対面455人とオンデマンド配信444人の合計899人の参加となりました。

一方、７つの分科会は、ライブ感のあるグループ討議やゲスト講師とコーディネーターの臨機応変な進行を大事にしたいため全分科会を対面で行い、一日目の全体会の講演を受けての分科会となるよう、分科会希望者は両日の申し込みを必須としました。

大会一日目、開会式では全日私幼連の田中雅道会長のご挨拶を、全日私幼連の副会長でもある、都私幼連の内野光裕会長から代読と保育に励む先生達に労いをいただき、東京都生活文化スポーツ局の戸谷私学部長から、東京都の約８割の幼児が通う幼稚園の先生達への期待と激励をこめた挨拶をいただきました。

基調講演は、山梨大学名誉教授の加藤繁美先生から「保育の中の子どもの声～保育は子どもの声にどう応えるか～」を演題にご講演いただき、日常の保育事例から子どもの声を聴く行為を、厳しくも温かく深く考察する機会を頂きました。

午後の講演は一橋大学森有礼高等教育国債流動化機構講師、国際連合平和活動局政務官の中谷純江先生より「これからの世界と子どもたち：地球環境・平和・幼児教育」の演題で、続いて、犬ぞり北極探検家、（一社）アバンナット北極プロジェクト代表理事の山崎哲秀先生より「北極に生きる道を見つけて」と題してお話しいただき、お二人の講師からは、異なる立場、視点からのお話ではありましたが、ご自身が願い、求め、歩んでおられる姿から学び、また地球に起こっている様々な変化と人間の行い、子どもたちの未来について今考えていなければならないことを俯瞰して学ぶことができました。

二日目の分科会の第１から第４は、学年の発達を軸にテーマを考えました。

第１分科会、「2歳児保育のあり方を探る～発達の理解と環境や援助の在り方の検討～」　宮里暁美先生（お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション寄付講座教授）

第２分科会、「自己主張と集団生活～３歳児の保育とは～」　浅見　均先生（元青山学院女子短期大学教授）

第３分科会、「遊びの中に見る仲間作り～４歳児の具体的な姿から～」　岩田恵子先生（玉川大学教授）

第４分科会、「あそびの中の学びの姿を考える～５歳児の保育を中心に～」　箕輪潤子先生（武蔵野大学教授）

第５分科会、「特別な支援を必要とする子どもの理解とその対応～子どもの特性を理解すると共に具体的な支援方法を皆で語り合いましょう～」　水野智美先生（筑波大学准教授）

第６分科会、「幼児期における「劇活動」の意義を探求する～「遊び体験としての劇活動」をめざして～」花輪　充先生（東京家政大学教授）

第７分科会、「子育て支援を考える～子どもにとって大切な子育て支援とは～」　浅井拓久也先生（鎌倉女子大学准教授）

グループ討議は同じ空気の中で、園文化の多様性を感じながら他者の経験から学び、共感される喜びも味わい、前日の基調講演から繋がる学びの深まりを感じる分科会でした。今年もさらに熱い夏の研鑽のスタートが切れました。

（東京都私立幼稚園連合会教育研究委員長、中野区・やはた幼稚園／関政子）

東海北陸地区　教育研究大会　　長野県・長野市／7月27日・28日

大会テーマ　「新しい時代を伸びやかに生きる」

～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

令和５年度の東海北陸地区教育研究大会は、酷暑が続く７月27日（木）、28日（金）、長野県長野市で開催されました。

新型コロナウイルスが５類に移行されたとはいえ、感染者数の増加が報道される中、対面方式以外に、オンデマンドでの参加もできるよう工夫をいたしました。

◆全体会（１日目）

開会式では、全日本私立幼稚園連合会の田中雅道会長のご挨拶のほか、功労者表彰、永年勤続表彰が行われました。

その後の基調講演では、京都大学大学院教授の明和政子先生に、「胎児期からはじまるヒトの脳と心の発達　～幼児教育に必要な視点～」というテーマでお話しいただきました。「抱っこは、最も高い刺激であり、声を掛けられるという聴覚刺激はヒトの独特な環境。体が触れあう中で、記憶に結びつけられていく。乳幼児期の環境経験は、その後の脳と心の発達にとても大きな影響を与える。将来の心の健康の土台は乳幼児期である」などと、科学的な視点を交えて語っていただきました。

次の記念講演では、NPO子どもとメディア代表理事の清川輝基先生に、「激変する子どものメディア環境　～この問題を伝えていくことの社会的意義～」というテーマでお話しいただきました。

メディア環境の劇的な変化を踏まえた上で、子どもたちの変化は、視力の問題だけでなく、心の問題にも現れていると指摘。「遊びは子どもの主食であり、かけられた言葉の数に比例して言語能力が育つ」など、五感で育てることの大切さを強調されたほか、幼児教育に携わっておられる先生方への期待を熱く語っておられました。

◆分科会（２日目）

２日目に行われた10の分科会では、「話題提供者」「助言者」を交え、グループディスカッションを含め、熱の入った活発な討議が進みました。

第５分科会では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）を踏まえた保育実践」をテーマに、話題提供者お二人からの報告と、助言者のコメントを踏まえ、保育の質の向上につなげるための取組などについて、グループ討議が進みました。

◆PTA大会（２日目）

講演その１として、日本小児科医会　子どもとメディア委員会担当理事の内海裕美先生に、小児科医から見たスマホ社会でも大切にしたい子育てのコツ」というテーマで、講演その２として、第１日目に引き続き、清川先生にお話しいただきました。

内海先生からは、スマホ社会が進む中で、メディア漬けの子育てを見直すことの必要性など、小児科医としての視点から、非常に興味深いお話をいただきました。

◆終わりに

関係の皆様のご協力により、無事に開催することができました。ご尽力をいただきましたすべての皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。来年、石川県で再びお会いしましょう。

（長野県私立幼稚園・認定こども園協会研修委員長、上伊那郡・聖ヨゼフ幼稚園／倉科正豊）

近畿・大阪地区　教員研修大会　　オンライン／7月24日～9月3日

大会テーマ　「新しい時代を伸びやかに生きる」

～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

今夏、「新しい時代を伸びやかに生きる」を大会テーマとして、第37回近畿地区私立幼稚園教員研修大会和歌山大会が開催されました。

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけも「2類相当」から「5類」へ移行され、かつての日常が少しずつ戻ってきた時期でもありましたが、先行きの見えない状況で準備を進めた都合もあり、昨年に引き続き全研修オンラインでの実施となりました。

対面研修のメリットもたくさんありますが、配信期間中ならいつでも空いた時間に多くの皆様にすべての研修動画を見ていただけるという、オンライン研修のメリットを活かしての学びの機会となりました。

開会式は7月24日（月）に配信、特別講演・各分科会は7月24日（月）～9月3日（日）まで配信されました。

特別講演では、新百合ヶ丘総合病院発達神経学センター長、慶應義塾大学名誉教授としてご活躍されている高橋孝雄先生（医学博士、専門は小児科全般と小児神経。日本小児科学会前会長、小児神経学会元理事長）をお招きし、「子どもを育む遺伝の力・環境の力・おとなの力」～子どもの代弁者としての小児科医の視点～をテーマにご講演いただきました。

医学的な視点から、また、小児科医・小児神経科医としてのご経験からわかりやすくお話くださり、遺伝の力・環境の力・おとなの力を理解した上で、幼児教育に携わる者がどのように子どもたちと向き合っていけば良いのか、大切なことを学ばせていただきました。

分科会（7分科会）は各府県が担当し、それぞれ違ったテーマ・視点から発表が行われました。発表テーマは、以下の通りです。

第1分科会「ECEQ® を活用した保育観及び保育内容の変容」、第2分科会「語り合う学びの場を通して、子どもを見る眼を拡げる」、第3分科会「異年齢保育を通して人とかかわる力を育む」、第4分科会「心豊かな成長を求めて」～伝統と今の時代を重ねあわせ、心豊かな心身を育む～、第5分科会「幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント」、第6分科会「遊びから育つ力とは？保育者の役割とは？」。

また、和歌山県が第7分科会を担当することとなり、全日本私立幼稚園連合会で政策委員長を務めていらっしゃる日吉幼稚園（大阪府）の水谷豊三先生から「ポスト待機児童時代の幼稚園運営」というテーマでお話いただきました。

内容は、今まさに重要なテーマとなっている「保育所の空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業」についてです。水谷先生が司会進行役となり、モデル事業実施園の理事長・園長先生とその行政担当者のお話を聞きながら学べる機会となりました。

制度の説明だけでなく、実際にどういう問題があるのか、自園でも実施ができるか等、具体的にお話くださり、近畿地区の先生方にも「預かりモデル事業」について広く知っていただける機会となりました。

今回もオンライン開催となりましたが、そのメリットが活かされて大変多くの皆様ご参加をいただきました。開催にあたり、ご指導いただきました先生方、ご参加くださった先生方、準備運営に携わってくださった先生方、各府県事務局の皆様に衷心より御礼申し上げます。誠に有難うございました。

来年、京都でお会いできる日を楽しみに、ひとまずご報告と致します。

（（一社）和歌山県私立幼稚園協会教育研究委員長、有田郡・湯浅幼稚園／松下瑞良）

～年間連載　教育・保育の未来について考える　最終回～

令和４年12月号より始まった、西九州大学短期大学部幼児保育学科教授の牛丸和人氏による年間連載の最終回をお届けします。発達段階に応じた造形（表現）教育等を専門分野とし、教育者でありながら画家としても活躍されている牛丸先生の連載は、幼児教育への理解をさらに深める機会となったのではないでしょうか。牛丸教授、１年間ありがとうございました。

「発達障害は子どもだけ？」

西九州大学短期大学部
幼児保育学科教授　牛丸　和人

1　佐賀県教育センターでの経験から

筆者は、かつて佐賀県教育センターの生徒指導係の研究員として勤務していました。そこでの主な業務は教育相談で、スーパバイザの指導を受けながら、子どもや保護者の相談面談を行っていました。発達障害への理解が浅かった私でしたので、現場で自分が良かれと思ってしてきた指導や支援が、二次障害につなげてしまったケースがあったのではないかという、自責の念に駆られる場面が何度もありました。スーパバイザからの一言も心に刺さりました。「発達障害はその傾向にある人も含めて、大人になれば自然に治るという類のものではありません。病気ではありません。相談にいらっしゃる保護者の方の中にも、あなたの職場の同僚の中にもいらっしゃるという認識が大前提です。もちろん自分も含めて。」

2　保育現場、教育現場でのつぶやき

近年、発達障害という言葉は多くの保育現場や学校現場に浸透してきました。理解も進み、支援体制も着実に整ってきていると感じています。その一方で、発達障害やその傾向は子どもの時期の課題だという認識の人が、まだまだ少なくないように思います。実際、私が小・中・高校の学校現場にいた頃には「あのお母さん、毎回同じことを尋ねてくるのよね。」「〇〇君のお父さん、すごく失礼な物言いだから腹立つよ。」「あの兄弟、忘れ物の常習犯だよ。もう少し親が気を配ってくれないと困る。」といった会話が、職員室で聞こえてくることが多々ありました。言うまでもなく、発達障害に悩んでいるのは子どもだけではありません。大人社会の中で対人関係や子育てがうまくいかず、生きづらさを感じている保護者や同僚がいるのです。空気を読めない、うっかりミスが多いといったことを、自分の努力だけでは治すことができない大人もいるのです。

園長も職員も、みんなで学べる・話せる誌面をお届けします

みんなでつくる園の未来！

保育ナビ

「こどもまんなか社会」に向け、選ばれる魅力ある園づくりに役立つ、「国の動き」「人材育成」「園経営」「保育内容」「子どもの姿ベースの指導計画」「乳児保育」「小学校との接続」など必須の情報をお届けします。

B５判　72ページ　定価 1,200円（本体 1,091円＋税 10%）

「ICT活用術」「働き方改革」など、注目テーマも掲載！

誌面と連動した動画を毎月配信！

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9　https://www.froebel-kan.co.jp
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 子育ち支援事業部 営業推進チームまで

キンダーブックの フレーベル館

3　子どもにも保護者にも支援のニーズが

支援のニーズを考える際に「自閉スペクトラム症(ASD)」「注意欠如多動症（ADHD)」「学習障害(LD)」の３つが挙げられることが多いですが、中には重複している人もいます。子どもであっても大人であっても、脳の情報処理や制御に偏りがあるために、日常生活に困難が生じている人たちです。

これまでの研究では、発達障害は先天性のものであるとされていましたが､最近の医学研究（ハーバード大学と福井大学の共同研究）では「暴言･否定語･命令語・虐待・ネグレクト・DV・夫婦喧嘩が繰り返されることが子どもの脳の変形につながり愛着障害や発達障害などの原因となり得る」ということが発表されました。これは不適切な保育・療育への警鐘でもあるでしょう。保護者や保育者による言葉かけや関り方が、脳の発達や障害に影響するというのですから。発達障害に対する支援は、単に目の前にいる子どもへの合理的配慮だけではなく、対保護者も含めた支援でなければならないことにも気づかされます。

4　求められる保育者の豊かな「人間性」

平成 24 年の中央教育審議会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告)」では「各学校の設置者及び学校は、障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶというインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組として合理的配慮の提供に努める必要がある。その際、現在必要とされている合理的配慮は何か、何を優先して提供する必要があるかなどについて、共通理解を図る必要がある。」と示されています。私は子どもたちが共に学ぶことに加え、保育者と保護者とが「共に子どもを育てるという関係の構築」も同時に進められなければならないと考えています。非常に厳しい言い方になりますが、どれだけ発達障害や合理的配慮に関する専門的知識が高く支援プログラムを知っていたとしても、子どもや保護者の心のエネルギーを引き出すような温かい関わり方ができなければ、支援の効果は期待できないと思うのです。知識やスキルの習得は当然必要でしょうが、それらが効果的に生かされるためには、子どもや保護者との信頼関係を構築できる保育者側の豊かな「人間性」の醸成が不可欠なのです。人間同士のデリケートな心の交流ができる「人間性」の向上、これこそが AI が代行できない対人支援専門職に携わる人材に課せられた使命でもあると思うのです。発達障害をもつ子どもや大人（保護者や同僚）の生きづらさを、理解・共感しながら支援体制を整えていく園が、増えることを心から願って筆をおきます。

参考文献：
・「体罰や言葉での虐待が脳の発達に与える影響」福井大学教授　友田明美
・「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告)」平成 24 年中央教育審議会

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育･保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とカリキュラム

毎月２日 発売

ひかりのくに株式会社
本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

日本私立学校振興・共済事業団の融資

幼稚園の経営者のみなさん、こんなお悩みはありませんか

園舎が古くなったので、安全性を考えて建て替えたい

耐震化事業に関する利子助成制度です。ぜひご活用ください!

対　象

○旧耐震基準の園舎建て替え

耐震化促進のための補助金（私立学校施設整備費補助金等）の対象となる改築事業

○耐震補強工事・非構造部材の耐震対策事業

防災（耐震）機能強化のための補助金の対象となる改修工事

事業団の融資

この融資制度は文部科学省から私立学校施設高度化推進事業費補助（利子助成）を受けることが出来ますので

全借り入れ期間実質0.5%の固定金利です。

※融資金利が 0.5%以下の場合は利子助成は行われません

融資上限＝補助対象事業費－補助金

給食室を増築したいけど資金が･･･

最新の金利は私学事業団のホームページに掲載しています。

通常の融資もご相談ください。

低利・固定金利
20年間の
借り入れが可能!

返済方法は
利息負担の少ない
元金均等返済

■ 主な事業と融資金利（令和５年９月現在）

主な事業内容	返済期間（据置年数含む）		
	20年以内	10年以内	６年以内
【一般施設費】園舎・給食室などの建築・用地取得	1.30	0.80	年% 0.60
【教育環境整備費】通園バスや校教具などの購入	—	0.80	5年6か月以内 0.50

※融資金利は毎月見直しています。金利は融資契約時点の金利が適用され、償還までの固定金利となります。
※上記費目以外にも災害復旧事業、公害対策事業等が対象となります。

融資条件が一部優遇されます

私立幼稚園・認定こども園を対象とする私学事業団の融資について、融資条件が一部優遇されています。

☆ **融資率の優遇**

園舎等の建築、土地購入　事業費の80%以内　→　**95%以内**

園舎等の改修　事業費の75%以内　→　**95%以内**

☆ **資産査定額の優遇**

（直近決算の）純資産の部合計額　×　30%

→（直近決算の）純資産の部合計額　×　**40%**

※上記以外にも融資条件があります。詳しくは私学事業団ホームページをご覧になるか私学事業団融資課までお問い合わせください。

◇お問い合わせ◇
日本私立学校振興・共済事業団
融資部融資課まで

☎03(3230)7862～7864, 7866～7868　✉yushi@shigaku.go.jp
https://www.shigaku.go.jp/s_yushi_menu.htm
〒102-8145　東京都千代田区富士見1-10-12

青森県からのおたより

風土の良さを生かした連携

青森のお祭りといえばねぶた祭りが有名ですが、他にも西にはね・・ぷたと名の付く祭りが複数あります。東には八戸三社大祭を始めとする山車祭りがいくつもあり、北前船に乗って移入されたとされる祇園祭りまであります。北ではむつの恐山大祭などが有名です。自身は青森県生れの青森県育ち。一年中どこかで祭りが行われていて、太鼓の音を聞くとじっとしていられません。県内の「推し」な祭りもあります。それほど祭りが身近だということが一般的ではないことを、最近知りました。

地元百石祭りでは、園も山車を作って参加します。保護者も地区の祭り運行の係であって、会議などでは声を掛け合い、互いの苦労話にひとしきり花を咲かせたりします。笛や太鼓の演奏を卒園児に頼むこともあります。祭り本番では、引き子の園児や先生たちに、地域関係者から声援が降り注ぎます。卒園児の姿を見て成長を感じたり、近況報告を受けることも。祭りが組織の垣根を越えて共通の場になり、人々をつなげているのです。

全国的に幼保小連携のモデルが様々に模索されているところですが、風土の良さを生かし、そもそもある連携から広げていく「架け橋」もあるのではと考えます。

地域の生活・文化の中にはたくさんの連携の糸口がありそうだと思う秋。その土地ならではの特色を生かし、無理なく継続的に連携が行われれば、子供たちの育ちだけでなく、地域の活性化や文化の継承にも良い影響がありそうです。日本中に多彩な架け橋が虹のようにかかったら、幸せが増えそう。教育の可能性の大きさを感じます。

（青森県私立幼稚園連合会理事、おいらせ町・認定こども園百石幼稚園／吉田恵美）

長崎県からのおたより

教育研究大会・自治体・役員交流研修大会

新型コロナウイルスが２類から５類に引き下げられた初めての夏を迎え、各県でも少しずつ研修大会に対面形式を取り入れて、顔を合わせて学び合える喜びを感じられたのではないでしょうか。

本県でも７月に長崎県私立幼稚園・認定こども園連合会の教育研究大会が対面・オンラインのハイブリッド方式で行われ、県内から 400 人近くの参加者が、対面・オンラインそれぞれの方法で、高い志を持って研修に励みました。基調講演では聖心女子大学の河邉貴子先生に「改めて、幼児期にふさわしい生活とは何かを考えよう」というテーマでご講演頂きました。

河邉先生からは、コロナ禍の弊害として、感情を読み取る力の低下、群れて遊ぶ体験の低下を話されました。感情～の部分では、マスクで覆われた顔が当たり前になっていた期間、目元と口元で感情を読み取る経験が不足し、現場の先生こそ子どもたちの変化を多く実感しているのではないか、体験～の部分では、群れて遊ぶ経験不足は子どもだけでなく、保護者も孤独の中で子育てをしているということを、認識する必要があるとのことでした。コロナ後の保育のあり方、保護者支援の重要性を、深く認識した時間となりました。

８月には全日本私立幼稚園連合会九州地区会自治体・役員交流研修会が長崎で行われ、昨秋に開業した西九州新幹線「かもめ」に乗って九州各県より幼稚園の役員の先生方、自治体の担当者の方が集い、意見交換をさせて頂きました。１日目の記念講演では、建築家･株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役の西村浩様をお招きし、「地域で育むこどもたちの未来」というテーマでご講演頂きました。建築だけではなく、地域の街の活性化、街づくりにも尽力されており、人口増加時代は敷地に価値があったが、人口減少時代はエリアに価値を見出す、どのように園や地域を魅力的なものにしていくかが大切とのお話がありました。異業種の方からのお話はどれもが新しい視点で、深い学びとなりました。

懇親会は当連合会の渡辺会長の高校勤務時代の教え子である西村様ならびに鈴木史朗長崎市長も参加され大変盛り上がった夜となりました。

長崎県は新幹線の開業に合わせて長崎駅周辺の再開発が行われ、2025 年にフルオープンします。観光などで新しい長崎県の顔をぜひ多くの方に見に来て頂ければと思います。

（長崎県私立幼稚園・認定こども園連合会副会長、諫早市・西諫早幼稚園／薗田直章）

編集後記

足を止めて、手を止めて、目を瞑って、園庭で遊ぶ園児の声やクラスでの歌声を聞いていると、たとえ耳からの音だけでも、園児や教師の躍動や想いが伝わってくることがあります。園児と教師の会話や笑い声、みんなで縄跳びを数える声、ごっこ遊びに真剣に取り組んでいる掛け合いの声。それぞれにとても素敵な瞬間です。私の園では最近、運動会で歌う歌をよく練習していますが、園児達が運動会を待ち遠しく思っていること、そして「子どもなりに」心の準備のカウントダウンが始まっているのを感じます。

園の中でも、私から園児の姿が見えないところで仕事をすることがありますが、見えないからこそ、音で園児の生活を感じ、いつもと違う視点で捉えることができると思う時があります。声や音だけを聞いて、自分なりにその場の想像を膨らませて、その後に園児や教師の姿をこの目で直に見て嬉しくなる毎日です。　（広報委員・山内淳）

遊具：HOUSE

未来は、あそびの中に。

偉大なる発明も、世界を変えた公式も、
あそびから生まれた。
あそびは、すべての創造の源です。
あそぶ力を伸ばすことは、未来を切り拓くこと。
創造力をのばす。共感力をはぐくむ。ルールをまなぶ。
あそびから、こどもは無限の力を羽ばたかせていく。
あそびの環境に、あざやかな驚きを。
私たちは、未来をつくる仕事です。

JAKUETS

クラスや園のみんなで楽しめる
アプリがチャイルドブックから登場！

App Store からダウンロード　Google Play で手に入れよう
ダウンロード無料

お誕生日会に　生活指導に　絵本の読み聞かせに
いっしょによむぞう

いっしょによむぞう　サブスクリプション料金
特別価格
※チャイルドブック担当営業員を介してご購入いただいた場合の価格です。
1アカウント／月額プラン　5,500円（税込）
1アカウント／年額プラン　55,000円（税込）

初回会員登録限定　30日間無料体験実施中！　対応OS　iPad OS 14 以降　Android 5.0 以降

会員登録した日から30日間無料ですべての機能をご利用いただけます。ぜひ、この機会にお持ちの端末でお試しください。
iPad はこちらから　Android はこちらから

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL　営業 03-3813-2141　編集 03-3813-3785
チャイルド本社